

広 徳

校 訓
『 誠 実 』 『 勤 勉 』 『 創 造 』

学校だより 学力特集号

平成29年11月13日(月)

校長 田中秀昌

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

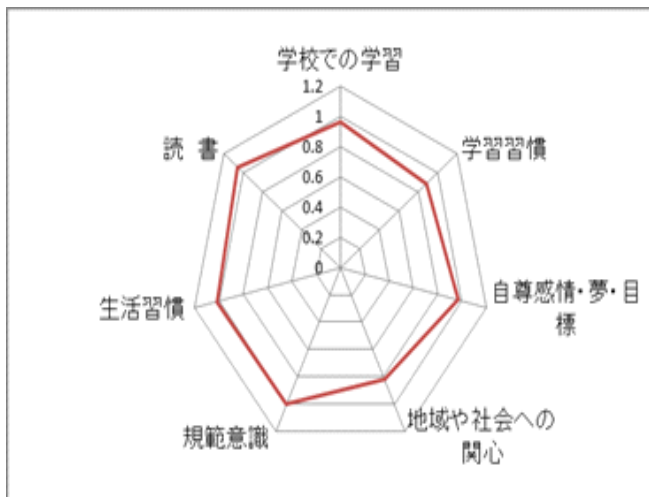
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。"

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率
国語A	・言語知識理解は少しずつ定着してきている。 相手により伝わりやすい文章が書けるように書くことを習慣化する必要がある。	同程度
国語B	・無解答率が高い。集めた材料を整理して文章を構成し、表現を工夫して作文する問題に課題がある。	下回っている
数学A	・一元一次方程式・連立方程式の無解答率が高く、方程式が苦手なことが読み取れる。	下回っている
数学B	・説明問題の無解答が5割と出題の意図を読み取り、説明をすることが苦手なことが分かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・生活習慣は、毎日決まった時間に起床・就寝をし、朝食を毎日食べている割合も比較的高い水準を維持している。
・自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の宿題を家庭でしたりする生徒の割合は昨年度と比較すると5ポイント上昇しているが、全国平均と比較するとやや低い状況である。
・読書が好きな生徒の割合は昨年度は全国平均を下回ったが、本年度は全国平均よりも高くなっている。学校図書館や地域の図書館の利用率も上昇している。
・「地域行事への参加」や「地域社会への関心」については全国平均を10ポイント近く下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

個に応じた基礎的・基本的なドリル学習を繰り返し行う。全教科で、資料等を活用した言語活動を充実させるとともに、考えを整理し表現させる授業の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

調査結果では、家庭学習の習慣が定着していない生徒の割合が全国平均よりも高くなっている。そのため、課題の出し方や自主学習ノートの質を高めるような取り組みをし、教育相談や学校便りを通じて保護者に対しこれまで以上の啓発に努める。